

＜実践事例＞

①校種・学年 教科等・単元名	□小学校 ■中学校	学年	教科等	単元名					
		1年	国語	帯单元「よむ」					
②学校名、実践者氏名	大阪市立昭和中学校		氏名 植田恭子						
③実践のテーマ	ICTを活用しグループでの意見交流を効果的に行うことにより、自分の考えや気持ちについて根拠を明確にしてまとめる。								
④活用教具	□デジタルテレビ ■PC ■電子黒板 ■実物投影機 □録画再生装置 □デジタルカメラ □デジタルビデオカメラ □その他 ()								
⑤活用教材名	『たんじょうびーゆたかな国とまづしい国ー』 レイフ・クリスチャンソン (岩崎書店)								
⑥授業スタイル	□教師説明型 □児童生徒実践型 □同時進行型 ■児童生徒発表型 □児童生徒自主学習型								
⑦教材活用時間帯	開始→	10min.	20min.	30min.	40min.	←終了			
⑧授業の進め方、 デジタルテレビ等 活用の仕方、	<ul style="list-style-type: none"> 導入：プレゼンテーションソフトウェアや実物投影機を使って提示する。 展開：電子黒板に各班の意見を提示し、ポイントとなる部分に線を引きながら説明する。 インターネットを利用して、途上国の現在の状況について見せ、考えさせる。 まとめ：みんなの意見さまざまな情報を提示し意見をまとめさせる。 								
⑨本時の展開 (主な学習活動)	学習の流れ	主な学習活動			使用するデジタルコンテンツ				
	導入	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板に「おたんじょうび」の文字を映し、そこからイメージすることを話し合う。 『たんじょうび』の表紙を提示し、表紙の情報を読む。 			<ul style="list-style-type: none"> ●静止画① 『たんじょうびーゆたかな国とまづしい国ー』 レイフ・クリスチャンソン (岩崎書店) 				
	展開	<ul style="list-style-type: none"> サブタイトル「ゆたかな国」と「まづしい国」について考える。 『たんじょうび』の読み聞かせ。 「この子」の写真の情報を読む。(静止画①) 服装、視線、カメラマンの思い等写真に写っている情報をすべて言葉で書く。 「この子へのプレゼントは？」なにがいいか、根拠を示してグループで交流しまとめる。 グループでまとめたものを提示しながら、ポイントとなる部分に線を引き発表する。(静止画②) あとがきを読み、プレゼントはこちらの一方的な押し付けではないことを知る。 さらにインターネットを使い途上国情報を読む。 (http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/s_leone/ 等) 			<ul style="list-style-type: none"> ●静止画②  				
	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 「この子へのプレゼント」について再度考える。 次時の予告。 			※写真に変更なし				
⑩児童の反応・効果	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板で見せることで、興味を持って授業に望み、集中力も高まった。 電子黒板に写することで、表紙の情報を読んでいることを自覚させることができた。 他の班の生徒の意見をポイントを明確にしながら交流することで、より深めることができた。 電子黒板により学習活動、学習目標、ねらいが明確になった。 電子黒板による提示は学習の手引きの効果もあった。 								
⑪活用のポイント	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーションソフトウェアで瞬時に見やすい状態にするのとは違うが、本の読み聞かせには実物投影機を活用することで、ページをめくり、拡大絵本を実際に読んでいる実感を味わせることができる。 事前に機器の操作に習熟させる必要があるが、電子黒板で、ポイントとなる部分に線を引くことで全員に注目させ、考えさせることができる。 実物投影機による提示で、写真の情報などの読み取りや相互の意見交流(伝え合い)をスムーズに行うことができる。 インターネットの最新の情報を活用することができる。そのための準備として情報の価値判断が必要である。 								